



「貼花梅樹文」などの古波佐見に見られた 優美な装飾に着目。

有田焼、伊万里焼と同様に400余年の歴史を誇る波佐見焼。古くは優美な装飾を施した青磁が大村藩によって保護され、当時の有力者に献上されることもあった。現代では日用飲食器として親しまれ、ピーク時には国内シェアの約17%を占めたが、最近では低迷が続いている。そうしたなか、石丸陶芸では古波佐見に施された「貼花梅樹文」などの装飾に着目し、近代製法との融合を試みた。

まず粘土を使って成形してから、細かい装飾の一つ一つ

装飾文化が発達した ヨーロッパなど 海外に販路を拡大。

販路拡大においては、実用性が重視される国内シェアよりは、装飾文化が発達したヨーロッパなどの海外を視野に置く。そのため、ブランド名に

(上) デザインの作画。商品デザイン、形状、工法においては、デザイナーや長崎県窯業センターとの提携を図った。
(中) 粘土で成形してから装飾部品一つ一つの型を起こす。この工程によって手仕事が頼りだった装飾の再現性を実現。
(下) 精緻な装飾を施すため、欠損率は従来品よりやや高く、絵付けなど手仕事も多い。



新しく装飾性の高い波佐見焼として開発された「セラサーージュ長崎」。百貨店からの引き合いもあり、見本市などでも好評を博している。

[長崎県・波佐見町]

長崎の新しい器「セラサーージュ長崎」

石丸陶芸 株式会社

Company Info.

窯元を擁する商社として、 創意工夫で波佐見焼に新しい風を。

昭和23(1948)年、波佐見町中尾郷に石丸午太郎が陶磁器卸商として創業。昭和29年に会社組織を設立し、石丸水雄が代表に就任した。昭和31年には、中尾郷から湯無田郷へ移転し、組織および販路の拡大に努める。昭和35年、会社敷地内に林九郎窯を設立し、オリジナルブランドが全国の専門店、百貨店に普及し、その後は窯元を擁する商社として地域振興に貢献。昭和46年には佐世保税務署より優良法人の指定を受けた。平成9(1997)年に二代目の石丸慶太が社長に就任し、現在に至る。



石丸慶太さん／代表取締役社長。会社敷地内に数億円を投じてコレクションした古波佐見、古伊万里などの美術館を併設。技術者の感性磨きにも貢献している。



○活用する地域資源：波佐見焼

日用飲食器から脱却し、 海外販路を開拓する 装飾性の高い波佐見焼。

近隣に有田焼、伊万里焼の産地があり、歴史、製法において共通点が多い波佐見焼。一時は日用飲食器の全国シェア約17%を占めたが、その後、国内消費は低迷が続いている。「セラサーージュ長崎」は、波佐見焼の技術を用い、従来にはない花びらなどの装飾を施した高級飲食器。海外への販路拡大を視野に、生産コストの削減も実現した。